

平成 26 年度 学校経営計画

1 学校教育目標

豊かな教養と深い技術を身につけ、自ら学び、自ら考える力を備えた、心身ともに健康で社会の変化に対応できる人間性豊かな工業人を育成する。

2 学校の特徴

(1) ものづくりの心を育む教育活動

本県における「ものづくりの中核校」として、創造的なものづくり活動、資格取得、地域産業との連携などを通して、21世紀の産業界をリードするスペシャリストを育成している。

(2) 地域社会に根付いた学校教育

全員参加によるインターンシップを推進する他、五福児童館祭りへの参加、電気工事ボランティアへの取り組みなど、地域社会との積極的な関わりを通してキャリア教育を推進し、職業観、勤労観を身につけた工業技術者を育成している。

(3) 活気あふれる特別活動

自らの能力を積極的に発揮しながら、生徒会活動や部活動などに取り組みせ、個性あふれ、協調性を備えた人物を育成するようにしている。

3 学校の現状と課題

〔現状〕

- 学年8クラスの大規模校になり、互いに切磋琢磨しようとする雰囲気が高まっている。
- 各学科では、学習意欲の高揚や将来の職業選択に向け、検定の合格や資格取得に熱心に取り組んでいる。
- 大多数の生徒が部活動に加入しており、ロボットなどのものづくりや文化活動、運動競技に積極的に取り組み、大きな成果を上げている。
- 約7割の生徒は就職し、そのほとんどが地元の大手製造業に勤務しており、離職率も低い。約3割の生徒は、各自の専門性をさらに高めるため、国公立大学をはじめ、工業系の各種学校に進学しているが、中には在学中と異なる分野で、自己の可能性を試そうとする者もいる。

〔課題〕

- 地域産業の担い手として身につけるべき技術・技能、考え方を、一層充実させるための授業の在り方について研究する必要がある。
- 地域社会の人々と幅広く関わる機会を一層充実させ、地域の期待に応えていくことが必要である。
- 自己の将来像を描き、生き方在り方についての考えを深めるようにさせるため、ふるさと教育を進めるとともに、企業研究、インターンシップ、資格取得に関わる指導などについて、内容や方法を検討し、更に充実させる必要がある。
- 異なる学習歴による学力差の拡大や、発達障害のある生徒の在籍など、生徒の多様な実態が見られるようになっており、教員による生徒理解を一層進める必要がある。

4-1 学校教育計画（全日制）

項 目		目 標 ・ 方 針 及 び 計 画	
(1)	学習活動 重点 1	目 標	○ 資格取得を通して、学習意欲の向上と学習習慣の定着を図る。
		計 画	○ キャリア教育推進の一環として、各科の専門教科に関する資格取得や検定合格に加えて、普通教科に関連する資格検定など、学科の枠を超えた取組みを充実させる。 ○ 資格取得やジュニアマイスター制度、顕彰制度などの啓蒙を行う。 ○ 検定合格や資格取得を目指す学習を継続することで、学習習慣の確立や学習意欲の向上を図る。
(2)	学校生活 重点 2	目 標	○ 生徒に愛校心を育てるための新たな活動を企画し、意欲的に取り組ませる。また、地域の方々とのコミュニケーションを図り、地域の問題解決や発展に関わりをもたせる。これらの活動を通して、社会規範意識の高まりや自らを見つめ直す機会とする。
		計 画	○ 全教職員が、生徒指導に関する考え方を共有し、共通理解を深め、教育のあらゆる場面を通して生徒と協力して、その実現に向け努力する。 ○ 地域や家庭、関係諸機関との連携を密にし、生徒の健全な生活習慣の確立に努める。 ○ 生徒の主体的な活動を重視し、その活動を全面的に支援する。
(3)	進路支援 重点 3	目 標	○ 社会での使命を自覚させ、生徒が自己の能力・適性を見つけ出し、その役割を果たすよう自らの生き方を考え、主体的に進路選択ができるように指導する。
		計 画	○ 学年、各学科と連携し、学校全体の指導を通して、生徒と保護者が納得できる進路決定を行えるようにする。 ○ インターンシップや工場見学、応募前職場見学を通して企業について理解し、勤労意欲や社会人のマナー等を学ばせる。 ○ 進路希望調査、面談などにより生徒の実態を把握し、講師を招いて講話会を開くなど、進路意識や職業観を養う手だてとする。 ○ 進路説明会や保護者懇談会などの機会を通して本校の進路指導の現況を保護者に知っていただく。 ○ 進学希望者に対しては、外部模試等で自分の力を把握させ、進学と進学後のために基礎学力と勉強習慣を身につけさせる。
(4)	特別活動 重点 4	目 標	○ 生徒会が中心となり、代議員会を通して生徒達の意見を基に学校行事等における自主的で活発な活動を推進する。 ○ 生徒会活動や部活動を通し、自主的自律的な生活態度を養うとともに、成就感や達成感を体験させる。
		計 画	○ 生徒会とホームルームの連携を強め、アンケート調査をもとに 学校行事の内容や実施方法について代議員会等で、十分に検討し生徒の参加意欲の向上や活性化を図る。 ○ 全員部活動加入を通して、生徒一人一人が成就感や達成感を味わえるよう個々に目を向けた活動を心掛ける。また、部の運営や部室の使用、活動場所の環境整備等について自主的に改善されるよう啓発する。

(5)	その他	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 健康で安全な生活をするため、自己管理する態度を身につけるよう指導する。 ○ 生徒が心身ともに健康に活動できるように教育相談を行う。 ○ 図書館の活用を指導し、自主的学習活動の促進を図る。 ○ 生徒の情報活用能力やプレゼンテーション能力を高めるため、各種資格検定のための学習環境や、情報関連機器の利用環境を整える。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の保健的意識を高め、自主的に健康を管理する習慣を育成するため、個別指導や健康教室を実施する。 ○ 教師と生徒及び生徒相互の好ましい人間関係を育て、生徒が悩みや問題を自らの力で解決できるよう助言し、心身共に健康な人間を形成するための支援を行う。 ○ 読書習慣が身に付くように、ホームルームの年間指導計画に「読書会」を設ける。 ○ 授業での情報室の利用や、課題研究発表会などでのプレゼンテーション能力を養うための情報関連機器及び視聴覚機器の利用など、効果的な情報教育を積極的に支援する。

4-2 学校教育計画(定時制)

項目		目標・方針及び計画	
(1)	学習活動 重点1	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個々の生徒の理解度に応じて、各教科間の連携を図りながら学習意欲を喚起する学習活動を展開する。 ○ 生徒個々の基礎学力の向上を目指すとともに、安全作業をよりどころとしながら、工業に関する基本技能および基礎知識の理解と定着を目指した授業を実施する。 ○ 工業に関する科目において、実技を中心とした授業を展開することで、ものづくりの精神に根ざした自己実現を目指す教育を推進する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○ 工業高校の特色を活かすとともに、個々の生徒の学力向上および進路意識の昂揚に配慮し、普通教科と専門教科間で調和のとれた教育課程を編成する。 ○ 個々の生徒の実情を踏まえて、各種検定試験に合格できる力を養成するために、個別指導や継続的な補習を計画する。 ○ 個々の学力に応じて、生徒ひとりひとりが理解を深めることができるよう、きめの細かい指導のできる授業環境を整備する。 ○ 生徒に自己有用感を持たせるために、生徒が製作した作品や授業で学習した内容について発表する機会を設定する。
(2)	学校生活 重点2	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会人として必要な規則やマナーを遵守する態度の育成と規律ある基本的生活習慣の確立を目指し、自主自立の精神の醸成に努める。 ○ 健康と命の大切さを認識させ、自らの健康管理と事故防止に努める能力と態度を育成する。

		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○保護者と緊密に連携し、職員全体で生徒の生活指導にあたる。 ○交通安全に関する行事や指導を定期的実施し、交通マナー向上や交通規則遵守を図り、事故防止に努める。 ○健康診断や健康相談を通して、自らの身体の状態を把握させる。 ○保健指導や食事指導を通して、適切な行動選択ができるように促す。 ○「保健だより」や「給食だより」の発行を通して、健康で安全な生活や正しい食生活に対する意識を高める。
(3)	進路支援	目標	○多くの生徒が「働きながら学ぶ」という定時制の実態をふまえ、生徒の望ましい職業観や職業意識、主体的な職業の選択能力を高めるよう指導・支援する。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○進路に関する情報収集に努め、職業安定所など関係機関との連携を密にし、生徒に対する進路指導の充実を図る。 ○学級担任・進路指導担当者と保護者との連携を密にするとともに、面接指導等を充実させ生徒個々に適した進路指導に努める。
(4)	特別活動	目標	<ul style="list-style-type: none"> ○特別活動を通して、日々の生活を有意義に過ごすための動機付けを行う。 ○日頃読書に親しむ機会の少ない生徒に、図書館の活用を指導し、併せて職場の仕事に必要な自主的学習活動の促進を図る。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒会（執行部・委員会・ホームルーム）の自主的な活動を促し、自主活動醸成の場とする。 ○特別活動の活性化を図り、部活動や生徒会行事に対して意欲的に参加する生徒の増加を目指す。 ○図書および視聴覚の充実と利用の促進を図る。 ○生徒の興味を引き、創造性を高める図書を選定する。 ○読書の習慣が身につくように、年間計画に読書会及び読書感想文コンクールを設ける。
(5)	その他	目標	○教育目標達成のため、定時制特質及び生徒の実態をふまえて、全職員の共通理解のもと円滑な校務運営に努める。
		計画	<ul style="list-style-type: none"> ○職員間の情報共有と共通理解を大切にし、個々の課題に対して主務を中心に全職員で対応する。 ○部、科、学年間の連携と調整を図り、効果的な校務運営をすすめる。

5-1 今年度の重点課題（全日制）

平成26年度 富山工業高校アクションプラン -1-	
重点項目	教科指導の充実
重点課題	工業高校生としての学力の向上
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各学科では、専門分野に関する検定合格や資格取得に向けた補習を行っている。また専門分野外の英検、数検ほか検定受検者も増加傾向にある。 ○ 平成25年度は延べ1714人が各種検定や資格試験に合格しており、昨年度より7.5%増加した。一人平均の資格取得数は1.81となる。
達成目標	一人当たりの検定合格または資格取得数
	一人平均 1.9 以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内指導体制の改善・充実と外部の専門技術者の招聘や活用を図る。 ○ 朝学習などの時間の有効活用により学習時間の確保を図る。 ○ ジュニアマイスター制度および単位認定制度の周知徹底を図る。 ○ 検定合格や資格取得を目指し、学習意欲の向上や学習習慣の定着につなげる。

平成26年度 富山工業高校アクションプラン -2-	
重点項目	生徒指導の充実
重点課題	学校を愛し、主体的に活動に取り組む生徒の育成
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 社会的に規範意識が希薄化していることが問題視されているが、その大きな要因として母国愛、家族愛の欠如が上げられている。本校生徒についても、本校を愛する気持ち、心が不足しているように感じられる。日々の生活の中で、生徒一人ひとりが主体的に個人の課題解決に向けて「気づき」、「考え」、「実行」できる力を身に付けさせること。さらには、愛校心を高揚させる活動を特活部と連携し、計画的に実践していくことが求められる。
達成目標	本校を愛していると回答する生徒の割合（※アンケートにより調査）
	全校生徒の 80% 以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本校を誇ることができる学校にするためのプロジェクトを立ち上げる。（誇れるから愛することができる。）取り組みの具体例は以下の通り。特活部と連携しながら、生徒会執行部で検討の上、選択して実践する。 ※僕らの、私たちの生徒手帳づくり ※いいね富工ボーイ、ガール（キャラクターの制作） ※富工イメージソング、応援歌の制作 ※富工学園ドラマ（アニメ制作） ※定例富工川柳の会を発足 ※定例地域討論会（もっと五福地区を素敵にするには）

平成26年度 富山工業高校アクションプラン -3-	
重点項目	進路指導の充実
重点課題	生徒の希望に対応した進路決定
現 状	<ul style="list-style-type: none"> ○ 昨年度は、高等学校再編統合により学年が6学科8クラス編成となって二回目の卒業生を送り出した。生徒一人一人に対するきめ細かな指導・援助を一層充実させ、

	生徒自らが進路を選択できるように、段階に合わせて指導すると共に、その進路先に適応し、自己実現を図っていく上で必要な諸能力（基礎学力、計画性、判断力、適応力など）の向上に努めることが重要である。
達成目標	3 学年における進路希望の達成度 (就職試験 1 次内定率、進学先第 1 希望合格率)
	達成度 85% 以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 企業訪問や情報収集を積極的に行い、生徒の就職先の確保に努める。 ○ インターンシップや応募前職場見学等を通して、生徒自らが企業についての情報を収集し、その上で就職先を決定させる。 ○ オープンキャンパス、学校説明会など積極的に参加し、進学先を決定させる。 ○ 資料閲覧室の利用しやすい環境を整え、資料閲覧や相談に対応する。 ○ 面接指導、補習など各教科、各学科の協力を得てきめ細かい指導をする。

平成 26 年度 富山工業高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動の活性化（生徒会活動と学校行事）
重点課題	生徒会・代議員会を中心とした学校行事の活性化
現 状	○ 体育大会、球技大会、富工展などの学校行事に対する生徒の意識は高く、協力的に行事を推進することができる。これまでの行事では生徒会や教師が中心的役割を果たしてきたが、代議員会等を活用して生徒達の意見を積極的に取り入れ、生徒達の自主的な計画・立案・運営・活性化を推進する。
達成目標	体育大会、富工展において生徒会を中心として、生徒が自主的に学校行事の企画・運営に取り組み、全校生徒が意欲的に参加し、満足できるような活動を目指す。 (※事前事後のアンケート調査における、全校生徒に対する百分率とする。)
	運営・企画に積極的な参加意識度 体育大会 70%以上 富工展 70%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育大会に向けて代議員会・運営委員会・団集会・係り打ち合わせを複数回開き、学校全体（生徒）の意見を集約し、プログラムや競技規則、配点方法の見直しを実施する。 ○ 富工展について生徒会が中心となり、代議員を通じてホームルームの意見をまとめ、生徒が意欲的に参加し満足できることを目指す。

5-2 今年度の重点課題（定時制）

平成26年度 富山工業高等学校アクションプラン -1-	
重点項目	学習活動
重点課題	学校設定科目「生活技能」による資格取得の推進
現 状	<p>高校入学以前の学習面のつまずきや集団生活への不適應に起因すると思われる基礎学力の不足から、学習意欲に乏しく授業への参加も消極的である。特に、高校生として求められる読解力や計算能力等の基礎学力、および一般的な教養において、個人差はあるが身につけていない生徒が多い。そこで、学校設定科目「生活技能」を導入し、生徒個々の学力向上を目指している。</p>
達成目標	<p>全国工業高校長協会主催の資格や国家資格に合格する生徒の割合</p> <p style="text-align: center;">65% 以上</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関連する各教科間で連携を図り、学習習慣の確立を目指すとともに、基礎学力の向上を図る。 ・ 個々の生徒の学力に応じた目標を設定し、自作教材により学習させる。 ・ 「生活技能」以外の授業においては、個々の受検希望者に対する補習等の学習環境の改善と充実を図る。 ・ 社会生活に必要なマナーや教養を身に付けさせるための機会を設定する。

平成26年度 富山工業高等学校アクションプラン -2-	
重点項目	学校生活
重点課題	基本的な生活習慣の確立
現 状	<p>家庭生活や生育歴、社会生活状況において様々な問題点を抱える生徒が多く、学校の時間帯に合わせた生活設計が困難であったり、適應性の問題から規則やマナーの遵守に欠ける傾向にある。過去3年間、生徒全体の出席率は平均95%前後で推移しており、授業遅刻や早退も少なくない。</p> <p>一方で生徒の中には、本校入学前に比べ、きちんとした高校生活を歩もうと努力している姿も見られる。働きながらも年間を通じ無欠席の生徒も存在する。こうした生徒たちには、毎日登校する習慣を大切に、自分の将来を考えている向きが感じられる。このように目標と向上心を持って、自律性を育む生徒が増えることは、生徒同士の相互作用により出席状況の改善のみならず学校生活の充実へ繋がると考える。</p>
達成目標	<p style="text-align: center;">年間の皆勤・精勤生徒の割合 37% 以上</p> <p style="text-align: center;">*皆勤 = 一カ年の欠席が0日 *精勤 = 一カ年の欠席が3日以内</p> <p style="text-align: center;">(平成23年度は21%、24年度は20%、25年度は32%)</p>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活状況の確認に努め、生活リズムを確立させるとともに、就業ガイダンスの充実を図る。 ・ 将来を見据えた進路指導により、日常生活の見直しを行う。 ・ 健康管理の個別指導を行い、疾病の予防・体調管理を行う。 ・ 年度末に表彰する皆勤賞・精勤賞を生徒の励みに日々の生活支援を行う。 ・ 保護者と緊密な連絡体制をとりながら、生徒の心身等の変調について、早期発見、早期対策を講じる。